

令和6年度 東小学校の研究

1 研究主題

学びに向かう力の育成

「豊かな感覚力」「深い考察力」「的確な表現力」を育む算数科の授業をめざして

2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「家庭・地域と連携・協働し未来へ向かってかがやく子どもを育てる」を掲げ、めざす子ども像を「すすんで学ぶ子 やさしい子 たくましい子」として、今年度の教育活動をスタートさせたところである。

また、校内研究に関しては、『学びに向かう力の育成～「豊かな感覚力」「深い考察力」「的確な表現力」を育む算数科の授業をめざして』を主題として、3年次計画の2年目をスタートさせた。

1年次目は、研究内容①「数量や図形についての感覚を豊かにするための導入・問題提示の工夫」を重点に取り組んだ。その結果、授業の導入の部分で丁寧で意図的にすることで、児童が見通しをもって問題に取り組み、思考が揺さぶられ、問題に対する手ごたえを実感しやすいという成果を得た。つまり、授業の導入部分や問題提示を工夫することが、授業全体の流れに大きく関わるポイントであるということを確認できた。一方で、「B図形」「C測定・変化と関係」の領域が不得意と感じている児童が多いという点や、交流場面での伝え方の質をどのように上げていくのかという点で課題が残った。

そこで、2年次目は、研究内容②「課題に対し見通しをもち、筋道を立てて考えるための場面設定と工夫」に重点をおくことで、問題を多面的に捉える「深い考察力」を育むとともに、不得意領域の学習改善や伝え方の質などについても研究を進めていく。

アンケートから

- 数と計算
- 既習事項をつかかって問題を解く
- ノートに自分の考えを書く
- 問題を解くときひらめくことがある
- ▲ 時刻と時間・水のかさ・長さ
- ▲ 小数・分数・概数・図形・割合



自分で問題を解いたり、考えを書いたりするのが得意。



領域「B図形」と「C測定・変化と関係」が苦手。

単元テストから見えたつまづき

【低学年】

時刻と時間・長さ・水のかさ



【中学年】

時刻と時間・筆算・大きい数のしくみ
角の大きさ・垂直や平行



【高学年】

小数のわり算・小数の倍・分数のわり算
分数の倍・割合・変わり方調べ

学びに向かう力の育成

「豊かな感覚力」「深い考察力」「的確な表現力」

実生活の中で使う算数・数学

標準学力調査から

【出題における共通点】

- 基本的な四則計算の問題 ↓ 基本的な計算力
- 例示された説明や考察の続きを考える問題
- ↓ 理論的に考え、言葉でまとめる力
- ↓ 証明に関わる文章や数学的用語を用いた穴埋め問題
- 対話的な学びを通して考察を深める力

3 めざす子ども像

自分の考えをもち、表現し、共に学び合う中で、問題を多面的に捉えようとする子ども

① 豊かな感覚力

数量や図形についての感覚（既習事項、基礎的・基本的な概念や性質の理解など）を豊かにする。

② 深い考察力

見通しをもち、筋道を立てて考える力。既習の内容と結び付けたり、発展的に考えたりすることで、問題を多面的に捉えていく。

③ 的確な表現力

自分の考えを簡単に、わかりやすく伝えるための方法を的確に選択し表す。



学びに向かう力

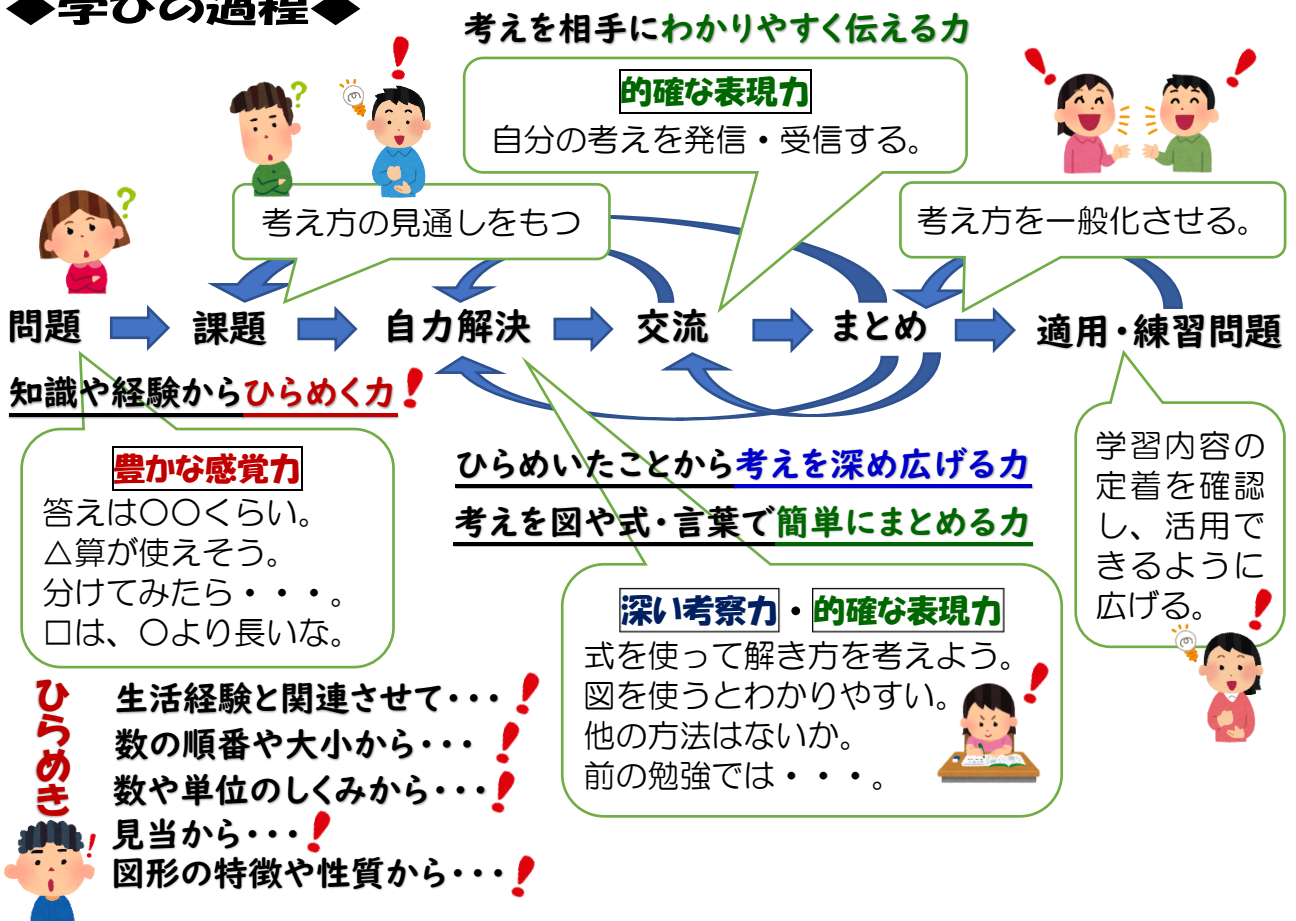
学び合い



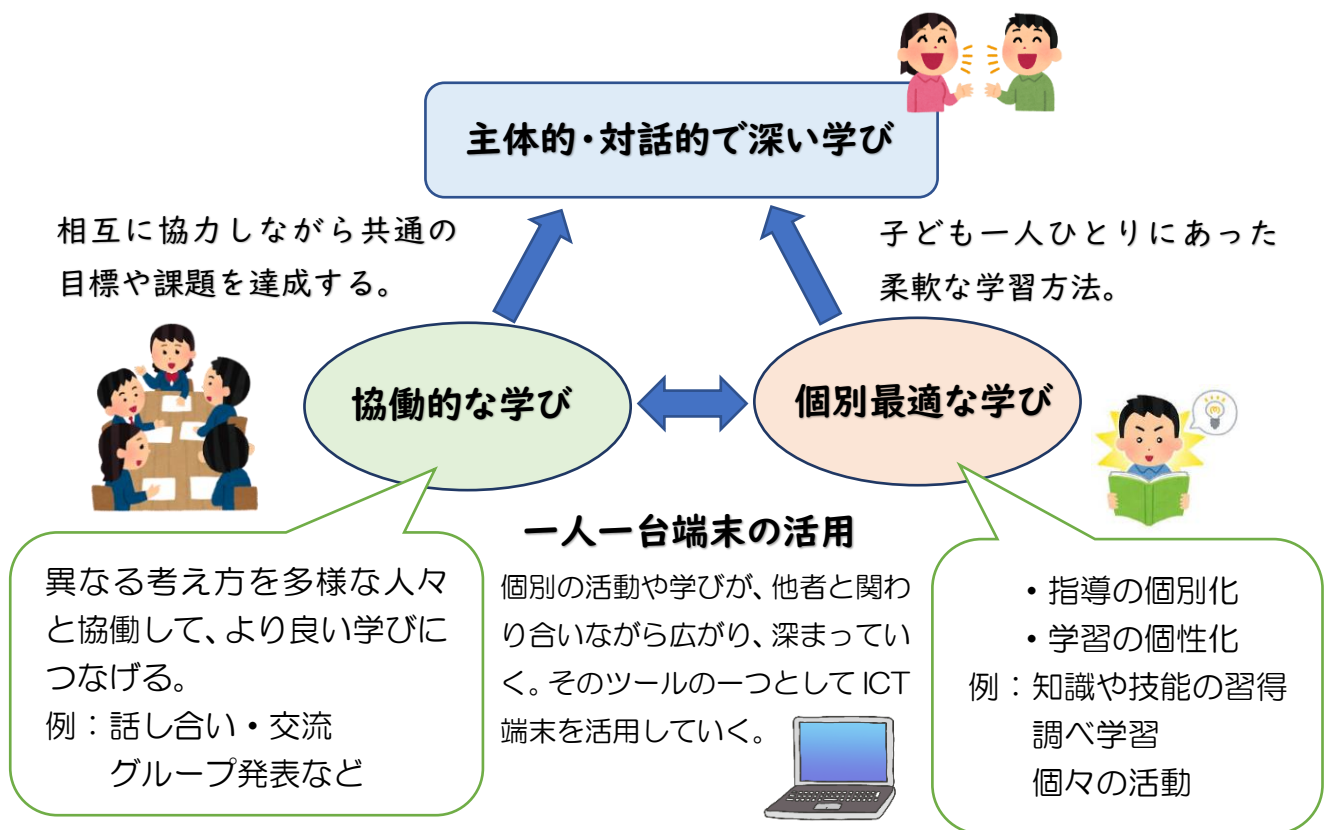
4 めざす授業像

数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、深く考え、的確に表現し交流する中で考えを広げ、学習内容の定着を図り、新たな気付きに出会える授業

◆ 学びの過程 ◆



◆深い学びの学習スタイル◆



5 研究の仮説

- ① 数量や図形についての感覚を豊かにすることで、問題の解き方や答えへの見通しをもち、主体的に課題に取り組むことができるであろう。
- ② 図や式などを使って自分の考えをわかりやすく的確に表現し交流することで、学習内容の定着を図り、多面的な考え方が広がるであろう。

6 研究内容

- ① 数量や図形についての感覚を豊かにするための導入・問題提示の工夫
- ② 課題に対し見通しをもち、筋道を立てて考えるための場面設定と工夫
- ③ 交流場面で自分の考えを発信するための表現方法や手立てを増やす工夫